令和７年ホヤ類調査結果速報　Ｎｏ．５

令和７年 10 月 22 日

北海道立総合研究機構函館水産試験場

※この速報は函館水試ＨＰでも見ることができます。

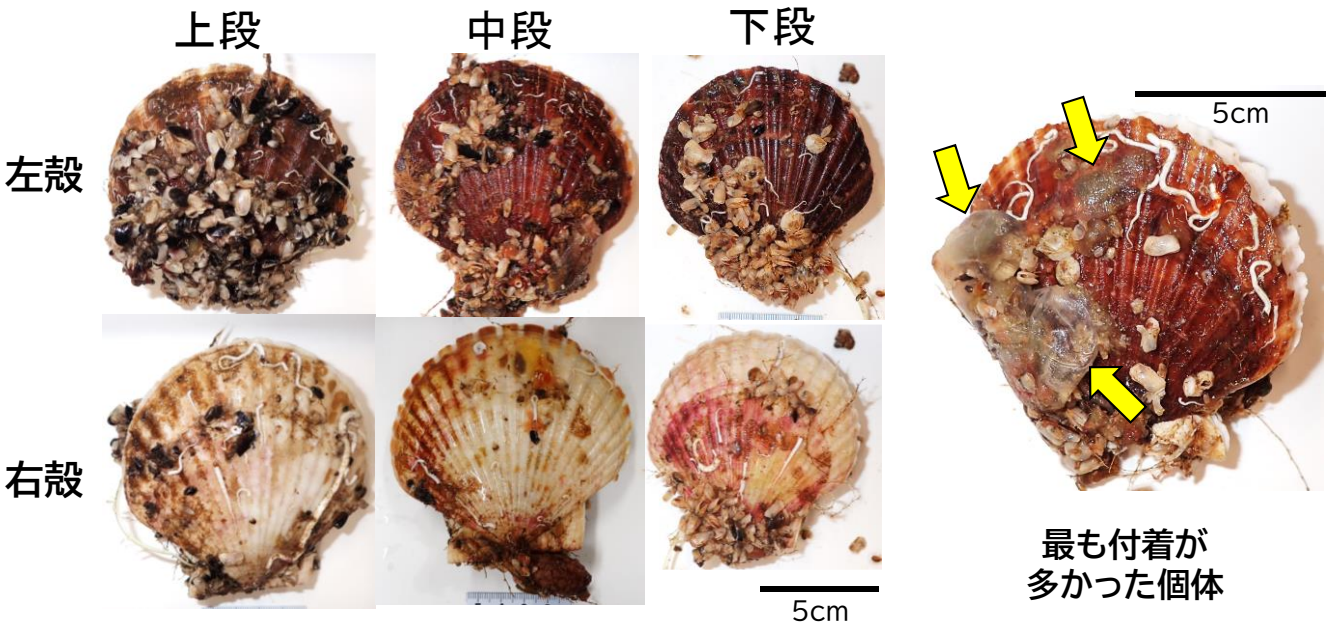
【アドレス：https://www.hro.or.jp/fisheries/research/hakodate/index.html】

10 月 14 日に渡島管内八雲町黒岩地区で耳吊ホタテガイ付着物調査を実施しました。また、10 月 15 日に同町内浦地区沖合で海洋環境調査を実施しました。

結果概要

- **ホヤの新規付着が継続中の模様**
  5mm 未満の最近付着した個体が複数確認されました。
- **ホヤの付着数はかなり少ない**
  10 月としては調査開始以来２番目に少ない付着数でした。
- **全深度層で耳吊り貝の成育に適した 20℃未満**
  16.2～19.0℃の範囲でした。

写真　ホタテガイに付着したヨーロッパザラボヤ　令和７年 10 月 14 日　八雲町黒岩地区



問い合わせ先：函館水産試験場調査研究部　水上・夏池 TEL：0138-83-2893

※本調査および情報配信は特定非営利活動法人水産業・漁村活性化推進機構から委託された令和７年度有害生物（ザラボヤ）出現情報収集・解析及び情報提供事業で実施しています。

耳吊りホタテ貝付着物調査

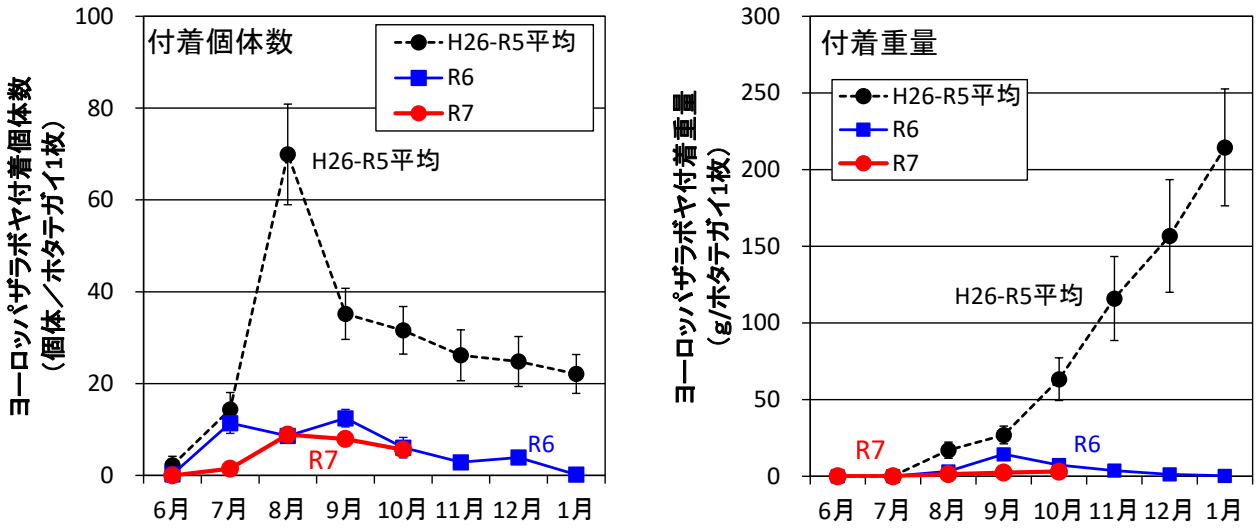
［調査月日：10 月 14 日、調査場所：八雲町黒岩沖、採取数：上中下層　各５枚］

ホタテガイを上層、中層、下層から 5 枚ずつ抽出し、肉眼及び実体顕微鏡を用いて、付着物を調査しました（写真）。ヨーロッパザラボヤの平均付着数はホタテガイ 1 枚あたり 5.6 個体であり、昨年（6.1 個体）と同程度でした（表 1、図 1）。平均体長は 13.2mm と昨年（21.1mm）よりも小さかったです（図 2）。サイズ組成をみると、5mm 未満の小型個体の出現が確認され（図 2）、ホヤの新規付着が続いていた様子です。ホヤの付着数および付着重量は昨年同様、平年よりも低い水準ですが、新規付着が長く続いている点が今年の特徴です。ただし、調査地点が昨年から変更されている点については留意が必要です。水温は前月から大きく降温し、全深度層で 20℃を下回り（図 3）、耳吊り貝の成育に適した水温帯になりました。

表１　付着生物調査結果（八雲町黒岩地区：令和７年 10 月 14 日）

ホタテガイ1枚あたり平均付着数量	上層	中層	下層	平均
全付着物重量	35.6g	21.2g	14.4g	23.7g
ヨーロッパザラボヤ	3.2g	4.7g	1.1g	3.0g
その他	32.4g	16.4g	13.2g	20.7g
ヨーロッパザラボヤ個体数	2.6個体	9.0個体	5.2個体	5.6個体
令和6年10月（R5.10.25）の個体数	3.0個体	13.4個体	1.8個体	6.1個体
令和5年10月（R5.10.11）の個体数	4.2個体	4.0個体	4.0個体	4.1個体
令和4年10月（R4.10.13）の個体数	21.8個体	23.0個体	28.2個体	24.3個体

図１ ヨーロッパザラボヤの付着量の季節変化



左：ホタテガイ上のヨーロッパザラボヤ付着個体数の季節変化

右：ホタテガイ上のヨーロッパザラボヤ付着重量の季節変化

各月のデータは全層（上層、中層、下層）の平均値で示しています（縦棒は標準誤差）。

図２ ヨーロッパザラボヤのサイズ組成（八雲町黒岩地区：令和７年６～10月

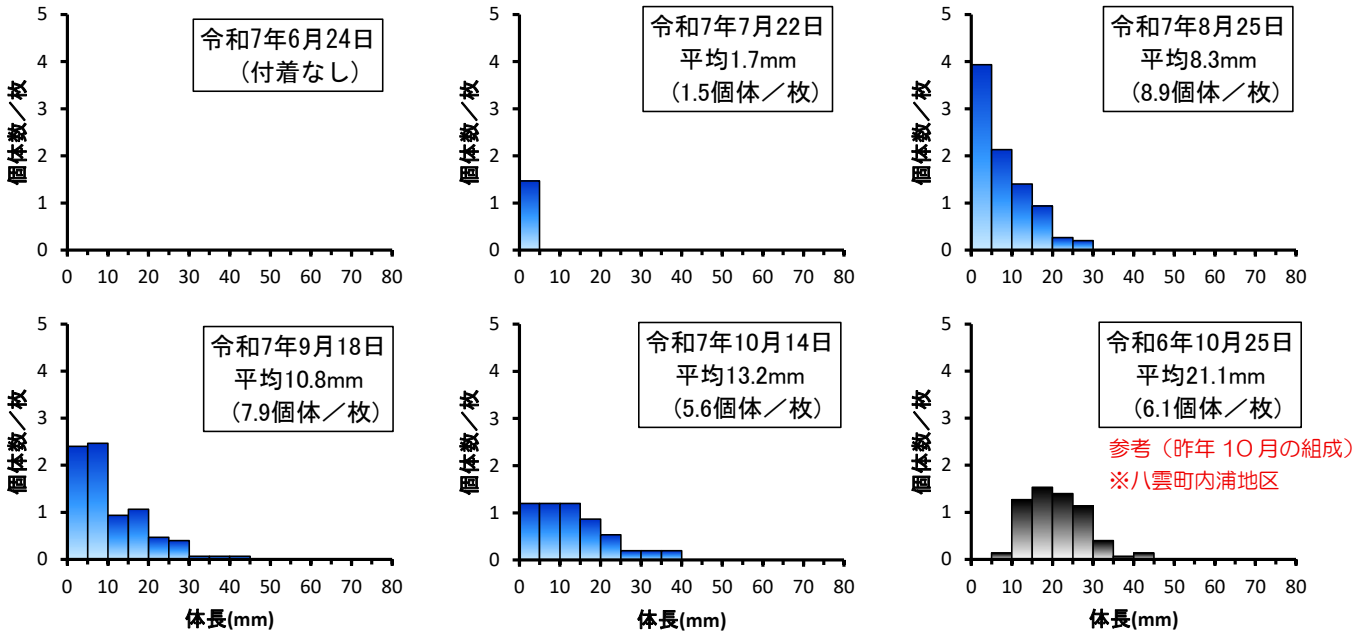
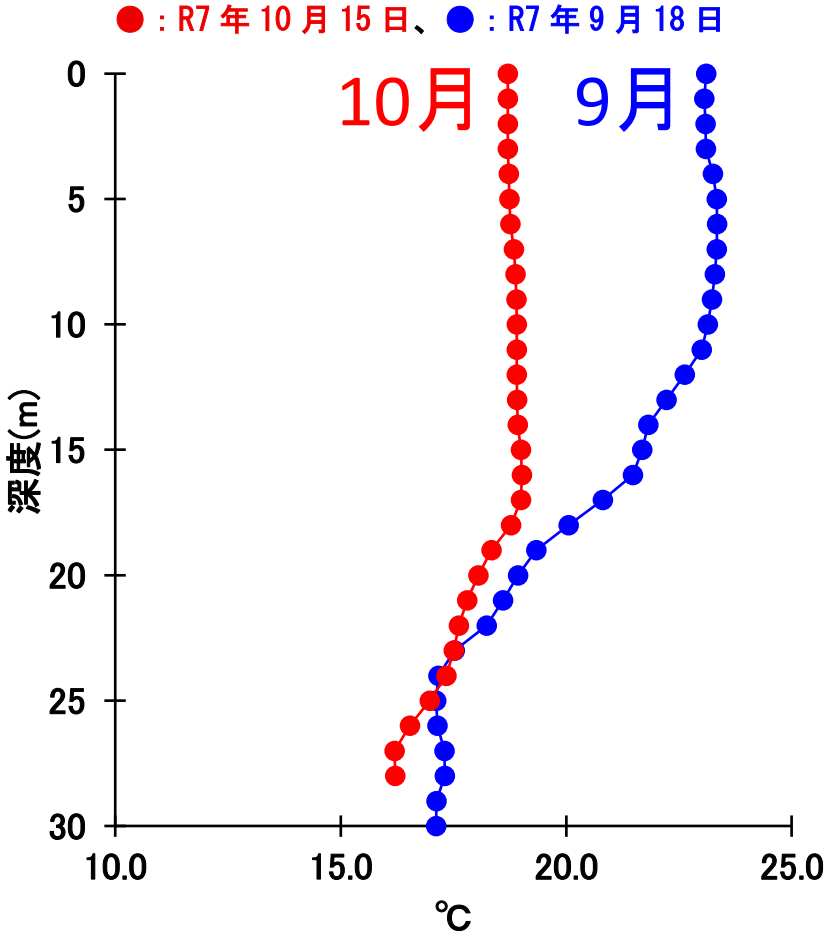



図３ 調査地点近傍（八雲沖３マイル）の令和７年 10 月 15 日の水温鉛直分布